

# 議会基本条例推進特別委員会広報・公聴分科会 会議録

|   |                 |          |       |       |
|---|-----------------|----------|-------|-------|
| 開催年月日   | 平成28年2月3日（第12回） |          |       |       |
| 開催の場所   | 湖西市役所 委員会室      |          |       |       |
| 開閉会時刻<br>並びに宣告  | 開 会             | 午前9時30分  | 分科会長  | 中村 博行 |
|   | 閉 会             | 午前10時56分 | 分科会長  | 中村 博行 |
| 出席並びに<br>欠席議員<br><br>出席 9名<br>欠席 0名<br><br>〔凡例〕<br>○は出席を示す<br>▲は欠席を示す | 氏 名             | 出欠       | 氏 名   | 出欠    |
|   | 高柳 達弥           | ○        | 牧野 考二 | ○     |
|   | 加藤 弘己           | ○        | 中村 博行 | ○     |
|   | 竹内 祐子           | ○        | 神谷 里枝 | ○     |
|   | 豊田 一仁           | ○        |       |       |
|   | 島田 正次           | ○        |       |       |
|   | 馬場 衛            | ○        |       |       |
|   |                 |          |       |       |
| 説明のため<br>出席した者の<br>職・氏名   |                 |          |       |       |
|   |                 |          |       |       |
|   |                 |          |       |       |
|   |                 |          |       |       |
|   |                 |          |       |       |
| 職務のため<br>出席した者の<br>職・氏名   | 次 長             | 尾崎 修     |       |       |
|   | 書 記             | 三浦 梨紗    |       |       |
| 会議に付した事件  | 別 紙 の と お り     |          |       |       |
| 会議の経過   | 別 紙 の と お り     |          |       |       |

# 議会基本条例推進特別委員会広報・公聴分科会会議録

平成28年2月3日（水）

湖西市役所 委員会室

湖西市議会



〔午前9時30分 開会〕

○**牧野副分科会長** 皆さん、おはようございます。お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。ただいまから基本条例特別委員会のほうの広報・公聴分科会ということで開催いたします。よろしくをお願いします。

○**中村分科会長** 皆さん、改めましておはようございます。先日、1月20、21と寒い中御苦労さんでした。前回の委員会の反省の中で、視察へ行った先でも新しいことが何か見える部分があるので、行ってきた結果を皆さんでまた反省していこうということで終わりましたので、きょうはその辺を踏まえて次第に沿って進めていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

それで、きょう皆さんのほうには、その視察の関係の報告がそれぞれ配られておりますが、そんな中で皆さんがどういうふう感じたかということを一応お聞きしたいというふうに思いますが、いかがでしょうか。いいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○**中村分科会長** 今言いましたように、報告はそれぞれが出てきておりますが、大ざっぱに言って、反省というか、行ってみた結果、どういうふう感じたかということを一言ずつお聞きしたいと思っております。

大ざっぱには皆さんの報告の中では見える部分もありますが、まず行った感想としてどうでしょうか。湖西が議会としておくれるような点があったとかという、こういう部分は進んでるとか、そういう内容があったら済みませんけどお聞きしたいと思っております。簡単にそれじゃあ済みません、高柳委員のほうから一言ずつ、順番で。

○**高柳委員** 分科会長言われたように、何か進んでるとかいろいろ言われたですけど、自分の感想は、うちのほうは報告会やったぐあいで、やはり人を集めるというか、人員集めに大変だったことについていろいろ聞いた中で、やはりやり方というんですか、報告会のやり方がやはり、あちらのほうではグループディスカッションとかそういうのをやって、そういうやり方にしていけば、人が集まるんじゃないかなど。もうちょっとやり方を工夫したほうがいいかなとそんなふうに感じました。それ一点です。

○**中村分科会長** これは東村山のほうだったと思っておりますけど、グループにまとめて、それぞれ討議をしてもらって、その間でまとめを発表してもらおうというようなやり方だったと思っておりますが、こういうやり方がいいんじゃないかということですね。わかりました。島田委員はどうですか。

○**島田委員** 視察行ってもやはり湖西市と余り変わらない。変わらないってやはり人数、聞きに来てくれる人が少ないというのがすごいどこ行っても感じると思っておりますけど。それと今高柳委員言われた、グループ別、あれがいいじゃないかなと私も思いました。以上です。

○**中村分科会長** 済みません、神谷委員。

○**神谷委員** 感想は報告書に書かせていただきました。その中で抜粋して言えば、今のお二人が言われたようなことと、もう全国どこでも議会報告会の参加人数ということは苦慮している。そういった中で基本条例を制定して、はしかのように全国広まってやっている。そして今問題に直面しているということですので、湖西市もそんなにマイナス思考に考えてやらなくても、まず自分たちがいいと思った方向性でやっていく。前回は発言させていただきましたけども、参加人数の多い少ないで左右されるのではなくて、参加された方がいかに満足感なりそういったものを感じて地域へ戻っていき、また口コミで広めていただく。それが基本条例の目的に近づいていくんじゃないかなと考えておりますので、余りめげずに今後の方向性を検討していったらいいんじゃないかということに改めて感じました。

○**中村分科会長** ありがとうございます。自分たちが考えた方向でまずやってみるということで、湖西もそれほどおくれるわけではないという感じに受け取ったということです。馬場委員、どうですか。

○**馬場委員長** 一応先進地視察ということで桐生市と東村山市のほう訪問させていただいたんですが、どこも議会報告会については悩んでるなというのが実感です。決して湖西市がおくれるわけでもなし、また先行してるわけでもないですが、やはりこの議会報告会自体がどのような形で議会の情報を発信し、また市民からどう意見を受け入れるか、これが議会側のマスターバージョン、自己満足に終わってはいけないと。そこらが重要なかなというのをひしひし

と感じました。

今後においては、手法いろいろある、勉強できたこともありますので、そういったものを、湖西市にないものを取り入れていく必要性は感じたところです。それが一つの言えば座談会方式とか、もうちょっと絞った形の中の意見交換会をやるとかいうような、形にこだわらず、いろんな方法でやっていけばいいのではないかなということも勉強させていただいた今回の視察かなと感じました。以上です。

○中村分科会長 牧野委員、どうですか。

○牧野副分科会長 私も今皆さんが言われたように、私の感じたのでいくと、桐生市は大差ないなど。湖西市と大差ないなというのが第一印象です。東村山市については、今言われたようにグループディスカッションということをやられておるということが、ちょっとこれ何か魅力を感じました。それで、何なら私もこれ書いたのでは、一遍このグループディスカッションを見学に行ってもいいのではないかなと。それで何か参考になるのではないかなと、こんなふうを感じました。以上です。

○中村分科会長 グループディスカッションがよかったと。加藤委員。

○加藤委員 やはり皆さんと同じで、グループディスカッションについては非常に興味を持ちました。

それと、やはり住民の意識がどこも、何も問題はないので住民の意識が低いのかもしれないけど、やはり行ってみて、議会報告会、形も変えてやらないかと思えますけど、これで余り効果ないんではないかと感じてではなくて、初めはそう思いましたが、やはり意識が変わるまで粘り強くやらなくてはいかんなど。どんな少なくともやっていって、議員何かやってるぞというようなことを、市民の方にわかってもらうのも大事ではないかなと感じました。

それと、ちょっとこのあれとは違うんですけど、一般質問の時間だとかやり方が、それぞれ聞いてきたけど、45分だとか40分だとか、答弁含めてそういうような感じでやってるんで、かなりスピーディにやってるなというようなことで、またそこら辺もちょっと参考にしなくてはいかんし、今後、うちの議会もそこら辺を考えなくてはいかんかなとは思いました。以上です。

○中村分科会長 意識が低いということと、議会としては続けていろんなことを発信していくと、議会の内容を発信していくということですね。

○加藤委員 意識が低いのか、それとも皆さんよく御存じでもうしっかり議会がやってくれてるから安心だというようなことかもしれないですけど、そこは確認してみないとわかりません。私も議員でないときにはもう全然こういうこと興味なくて、湖西市は豊かだし、議員もそれなりにやってるんでいいんじゃないのかなぐらいにしか思ってなかったです。

○中村分科会長 竹内委員。

○竹内委員 うち広報・公聴ということで視察に行ったわけですけども、桐生市がやはり先進地と言われているのは、FMラジオを持ってるということと、議長定例会見をやるとかというようなことで、先進地だよなというふうに挙げられてたんですけども、うちはそんなラジオも持ってないし、広報どうしましょうかということが課題に、なかなかそこが解決できないまま帰ってきてるんですけども、私は議長定例記者会見というのは、ちょっと考えてもいいのかなと。議長が代表して、ちょっと議会のそういう報告会を先にしてくれると、ちょっと市民の皆さんにPRになるのかなというのが思いました。

それと、うちのところで課題にしてた議会報告会を全員でやるかどうかというのも伺ったところ、両市町、全員でやりましたね。ですので、やはり全員でやって、共通認識したほうがいいのかないかなというのを感じました。

それから議会報告会の方法ですけど、皆さんやはり報告を短くしてて、意見交換みたいなそういうのは長くとってるといところで、私たちもその方向性に向かっているんで、一緒かなということを感じてきました。

それからインターネットの議会中継とかそういうのも、やはりこれからは湖西市も進めていかないといけないのかなというのを感じています。議会傍聴席どうのこのよりも、やはりネットのほうを先にしっかりそういう広報に関

しての整備をしていったほうがいいのかなどというふうに思います。

東村山のほうは、先ほども皆さん何回も言われているように、グループディスカッションというのですね。ですので、私もやはり少人数制で市民の意見を聞いたほうが、市民の方の意見を出やすくするのかなというふうに思っております。以上です。

○中村分科会長 豊田委員。

○豊田委員 ほとんどのところ、皆さん既に御指摘いただいておりますので。私も印象に残ったのは正直、東村山のグループディスカッション方式。あの方式が湖西でやりやすいかどうかというのはちょっと考えるべきところがあって、湖西の場合はいわゆる居住地が幾つかに分散してますので、各居住地を回ることに重点を置いてもいいんじゃないかなという印象を持っています。やはり都会型の思考をする住民の方々の発言と行動パターンと、やはりちょっと湖西とは差があるんじゃないかなという印象を持っております。

それから、先ほど竹内委員も指摘されてましたけども、インターネットの方法、今湖西も試行ということで本会議の中継だけをやってますけど、やはりそれも1カ月たないうちに消えてしまうというような状況。東村山それから桐生市ともに100万強、多いところで180万、少ないところだと百二、三十万かな。かなり編集まで含めた形の録画を流してますので、その辺についてはやはり我々としても一つの方向性として、もっと充実させていく必要があるんじゃないかなと。より身近なものに感じていただけるための手段としては、重要な要素ではないかというふうに感じました。

桐生市については、一度に短期間のうちにメニューをだあつとつとつと、実行をしつつ内容を考えてるということで、ちょっと、メニューはそろってるけども、我々が参考にすべき内容としてはもうちょっと様子を見てもいいのかなという印象を持った次第です。以上です。

○中村分科会長 ありがとうございます。そういうことで、私はどこの市もやはり市民が何を聞きたいと思ってるかということと、議会が何を発信していくかということ、やはり改めて考えてみなくてはいかんかなとそんなふうに考えました。一方的にいろいろ流すことはできるんだけど、市民がどんなふうなことを要望しているのかということが、どこの市でもやはりお互いに試行錯誤している段階だなというふうな感じをしました。

今出たような、いろいろやってみるということで進めていかなくてはいかんと思うんですが、改めて議会と市民というか、そういう関係のことをどんなふうな形で発信していったらいいのか。どんなことはみんな要望してるのか。それなら聞きたいねという部分を改めてみんなで論議していったほうがいいんじゃないかと。

それぞれ視察した内容の中では、ラジオやなんかでも持ってる番組があったり、記者会見もあったりはするんだけど、結局は、私の感じでは議会だよりみたいに、ある程度議会で決まったことをいろんな方向を変えて、ラジオ番組であったり、インターネットであったり、ということでいろいろ発信しているという形のことは確かに知らせる意味では欲しいと思うんですが、最終的に言えばやはりもうちょっと知らせるほうと聞くほうのことをもうちょっと考えて、聞く側の立場に立っていろんなことを考えていかなくてはいかんかなという思いがしました。私はそんな感じでした。それで、そういう方向でいろいろ論議して、湖西の広報・公聴としてはこんなふうな形で考えて、市民の側に立ったような形の報告会にしていかなければいかんかと、そんなふうに、具体的にはまだありませんけど、一つの方向としてはディスカッションというのも一つの方法だなと思いますけど、そういうふうにとこも苦労しているという感じを受けました。こんな感じですが。そんなところでよろしいでしょうか。

報告会については確かにいろいろやり方があって、年4回という形でもって行った先ではやって、内容的にはその議会での報告あった、議案として出てきたものの報告をするのと、請願とかそういうもので出てきた、その議会にあった現状を一応はその議会報告会で定例会のたびにそれを報告して、あとは意見を聞くという形の内容で報告するように私は感じましたが、その報告会を1回でいいのか、定例会のたびにやるのか、そこら辺はどうでしょうね。報告会自身を今までどおり1回で。はい。

○**島田委員** もちろん1回で上等。何回もやったってお呼びじゃない、あんなの。私はね、そう思います。それと、場所もそうだけど、5カ所でやってるけど、あんなの2つぐらいでいいと思いますよ。議員がえらいだけ。えらいというよりも、やったって無駄なことは多過ぎると思います、私はね。皆さん、どういう意見か知らんけど、2カ所に絞るべきだと思います。

○**中村分科会長** 今、そういう形の話がありましたけど。加藤委員。

○**加藤委員** 私も1回でいいなと思っております。やはり何のためにやるかということを考えると、やはり市民というのは議員とかに何を求めているかということ、やはり生活のこととか自分たちの福祉がよくなることとか、豊かになることなどで、かなり要望的なことも多くなると思います。ですから、そこら辺今後どういうふうになっていくかなと。ただ、そうかといって報告したりとかいろいろな意見を発信しないと、全く見向きもされなくなってしまいます。要らんじゃないのかなって言われるようになってしまうので難しいなと思うんですけど、やはり一番大事なところは報告会たくさんやることでなくて、やらなくたって市民が幸せならいいんですよ。そこら辺が一番僕はこれから考えていくことではないかなと思うんですけど。

○**中村分科会長** そうすると加藤委員は1回でいいんじゃないかと。

○**加藤委員** 1回でいいと思います。

○**中村分科会長** 皆さんはどんなあれですか。牧野委員。

○**牧野副分科会長** 牧野です。私も1回でいいと思います。というのは、いろんなもの、皆さんの要求してるものに応えようとして資料をつくるということが非常に大変だということのは私が言うまでもなく皆さんわかってると思うんですね。ですから1回をやはり充実したものにするほうが私は価値があるような気がします。以上です。

○**中村分科会長** 豊田委員。

○**豊田委員** 私もやはり年4回というのはちょっと負担が大き過ぎるかなという印象です。とりあえず1回を続けていくところを継続しながら。ただ、やり方なんですけども、先ほど島田委員のほうから2カ所でいいじゃないかというような説もありましたけど、議会報告会として議員が大勢参加して開催するのは2カ所ぐらい。この市役所周辺とそれから新居の支所周辺でキャバの大きいところでやると。あとそれ以外に、例えば白須賀、それから知波田、大知波地区ですね、それから出入地区、新所地区、それと例えば新居の中でも支所からちょっと離れたエリア、それから鷺津の中でも少しこの辺から離れているエリア、それで例えば新所原地区でも何カ所かというような形で、議員の参加人数を絞り込んで、膝詰めといいますか、小グループ的な意見交換のできるような会場。これまでの流れからして、そういったところはそんなに大勢の参加が見込めないというか、少ないんじゃないかと思っておりますので、議員も三、四人のグループに分けて行っていけば、そんなに大きな負担なく、生の声に近いものが聞かせてもらえるんじゃないかなというようなことで、大規模集会2回、それから小規模集会何カ所かというような形を検討できないかなと考えてます。

○**中村分科会長** 大勢が集まる場所では2カ所ぐらい年1回やって、それ以外に小グループで各地域でやるというような考え方でですね。という話も出ましたが、どんなぐあいでしょうか。竹内委員。

○**竹内委員** 報告会は1回で2カ所ぐらいでいいと思うんですよ。うちは常任委員会があります。常任委員会はそれぞれ所管したところを専門的に調査研究したりとかしてるんで、私は本当に田原市さんがやっていたみたいな、何でも言って委員会みたいな感じで、うちの委員会は例えば入所待ち児童のことについてこういうことを皆さんからお話聞きたいからというのをつくったりとかして話を聞くとかというような、何か各そういうようなテーマを決めて、そういう意見交換会みたいなのをやるところを何カ所か設けていけば、やはり若い方がいっぱいいるようなところでそういうものを話さなければ、集まってくる人もいないので、そういうふうに分かちの目的をしっかりとそういう市民との意見交換会の場をつくっていけば、別に議会報告会みたいなものはやらなくてもいいんじゃないかなと思うんですね。それに全般的なことをやると、結構大変になってしまうので、委員会別にやったら意外とやりやすいのか

など私は考えてます。

○中村分科会長 神谷委員。

○神谷委員 今皆さんが言っている意見というのは、これ、1年間広報・公聴委員会として活動してきたその総まとめとして今皆さんが、視察も行ってきて意見を言われて、それを提言に向けていくための発言という解釈でいいんですか。どういうことでしょうか。

○中村分科会長 まとめですからそういう形でまとめて、提言につなげていきたいと思いますがね。つけ加えると、運用部会のほうは一応前回で一応提言をまとめて出していることもあるものですから、推進委員会全体として何かやはり一応1年というふうなことで進んできておるものですから、一応は運用部会ともあわせて一応ここでそういった提言を出して、それ以後どうするかということはまた特別委員会のほうで考えればよいと思うんだけど、一応我々もあわせてやっていかないと、締め方が、片一方は終わったけど片一方は終わってないとかという形になってはいかんものですから、一応そういうことであわせて提言をしていきたいという形のことも持ってまともという形で切りにしたいというふうに考えています。なもので、今の出たいろいろ開催の方法も、大規模は1カ所でいいとかいう話のことはその中に一応提言として、よそを見てきたけど自分たちはこんなふうに考えるということで提言をしていきたいというふうに考えます。そういうことで行きたいと思います。

○加藤委員 提言して、提言したものは、市民にアピールするわけ、これ。当然ホームページなんか載せると思うんだけど。

○中村分科会長 それは我々はあくまでも分科会ですので、それはもとの推進委員会のほうにうちは上げますが、それをどういうふうに考えるかは推進特別委員会のほうで考えてもらわないと。我々のやった結果としてこういうほうがいいですよということは提言するんだけど、それについてはまた特別委員会のほうで話をしてもらわないと、我々の意思でそれを決めるわけにいかないもので、そういう形にはなるというふうに思います。

○加藤委員 わかりました。当然何らかのやらないと、ただ議員だけでやったとって提言して、議会の中だけで終わってしまったら何もならないもので。大事なのは。

○中村分科会長 我々の分科会に任されたことについては、こんなふうに考えますよということで一応推進委員会のほうには出していきたいと。そういう形に進んでいきたいと思いますが。それでいいですね。

○馬場委員長 今、それぞれ皆さんから議会報告会の今後のあり方ということで。私も回数としては年1回で。

○神谷委員 ちょっといいですか。回数、年1回というのはもう基本条例でうたわれてるんですよ、年1回以上って。

○中村分科会長 1回以上とうたわれてますね、それは。なので。

[不規則発言あり]

○馬場委員長 いいですか。今まで湖西市の場合は、年1回で会場を5会場というふうな形でやってきたんですけど、いろんな視察を終えた後の感想としても、本当に我々が訴えたいこと、また市民から聞きたいことというものについては、年1回の開催と先ほどから出ている2カ所ぐらいの大きな会場での説明、意見交換会やって、あとはやはり出前講座式、委員会でやってもいいし、もうちょっと小規模的なもので2グループ、3グループ、4グループと分かれて、そういった中の意見聴取を含めた出前講座というような形のほうが、今市民が何を訴えたい、何を聞きたいというところをもっと身近に感じれると思うし、やはり大きな会場ですと意見が出しにくいというところもありました。そうしたやはり意見を出しやすい雰囲気づくりというのをやはり小グループとかそんなところで、その中身とか方法はまだまだこれから検討する余地はあると思いますので、基本的には年1回やって、大きな会場で2カ所、あとは小グループに分かれた出前講座も含めて数カ所でやるというふうな形を検討していただければいいかなと私は考えております。以上です。

○中村分科会長 それで、年1回でどんな方法でやるかという部分もあるかもわかりませんが、その報告のため



のいろんな仕事量というのは議員はどんなふうに思ってるかということも一つはあるかと思うんだけど、年に1回だからその報告に対して年1回でどんなふうな報告をするかということも一つ問題が出てくると思うんだけど、その辺はどうでしょうね。何か年1回ならどんな方向でというか、どんなふうな報告会にするのかっていう形も考えていかなくてはいかんと私は思うんですが。年1回の報告会でそれではどういう内容を報告していくかという内容になるかと思うんですね。

今回は各委員会がテーマ決めて、それぞれやったんだけど、そのために時間を議員が大分費やすという部分も、合わせなくてはいかんとかいろいろあったんだけど、そういう部分はどんなふう考えるのかということも一つ出てくるかと思うんです。竹内委員。

**○竹内委員** 私は今回のように各委員会でテーマを決めてやったことが、市民の方にとってはとてもよかったという感想を幾つかいただいているもんだから、私はやはりそういうふうにそのところで市民、もちろん委員会でも何が一番報告したら市民に関心を持っていただくかということ委員会の中でも練りましたので、やはりそういうもののほうが参加される方は来やすいと思うんですね。前回のときは予算が終わって、その予算説明みたいな報告みたいな形をとりながらやったんだけど、そういうのはやはりアンケートの中でもそれは行政がやればいいことで、議員さんたちはもっと議会のいろんなこと、議会がどう考えているかということ報告してほしいというものだったので、ちょっと大変かもしれないけど、でもそれは日々私たちが検討しあっている課題点をこういうふうに皆さんにお話ししますという報告ができていると思うんですね。そのほうがいいのかなど。

**○中村分科会長** 今、各委員会でそれぞれテーマ決めて、今回やったような方式でやったらどうかというように私はとりましたが、皆さんはどうですか。高柳委員。

**○高柳委員** 今、会長が提言ということで言われたんですけど、それで今皆さん方、いろんな回数ぐあいとかやり方とか、皆さんそれぞれに委員の方の意見があると思いますけどね。なもんで、それ、提言でそういうのを出して、ありましたよと出して、それで分科会はこれで終わりにして、それでこういうのを報告会をやるためのそういう組織というか、報告会用の広報・公聴ですか、そういうのをつくって、そこでやり方を決めていったほうがいいんじゃないかなと。一応こういうことで分科会的には皆さん方それぞれ意見があるもんで、こういう意見が出ましたよと。それを今度実際にやるにはそういう組織みたいなつくってということで、特別委員会のほうは閉めちゃって、それで報告会用のそういうのを体制をつくって、それで取り組んでいったほうがいいかなと、そんなふう思うんですけど。大体何回やってもこういう意見が出てきちゃうもんですから、この広報・公聴分科会は出てくるもんですから。皆さんそれぞれ意見出て、それを集約までというか、こういうのがあったと提言してしまっておいて、あと実際にやるには、やり方をそういうようにそういう組織を立ち上げたほうがいいかなと思うんですけど。

**○中村分科会長** 今回やってみて、我々は報告会をやるということを主眼にしてやってきた結果、いろいろ皆さんからいろいろ話が出てるんだけど、高柳委員の提案は、やってみた結果こういうふうに自分らは感じた。こういう問題点があったという提言をもって一応切りにして、次の委員会というか、どういうふうに進めるかはまた別に考えてもらって、その中で我々の出した意見を参考にして決めていってもらいたいというふうな意見でいいでしょうかね。

**○高柳委員** それで特別委員会もだだら行っちゃうような形になると思うもんですから、そこで切りをつけたほうがいいかなと思います。

**○中村分科会長** そういう切りを一回つけて、まとめて切りをつけたほうがいいんじゃないかということですね。

さっきの仕事量のほうについては、年1回で何かテーマを決めてやるとなると、どうでしょうね。議員に負担がかり過ぎるとかいろいろまとめなくてはいかんとかいう形になるけど、そういう部分についてはどんなふう考えますかね。今回、桐生に行っても、東村山に行っても、うちでいうと議会だよりの内容のようなことをそれぞれ議会の報告という形でやってたほうが、私は議員の仕事量は減るように思うんですが、そういうやり方もあるかなと。テーマを決めてやるとなるとそれにまたいろいろ委員会でもまとめたり、それぞれ全体でもまとめたりというような形のこ

とで時間も費やす部分があるんですが、その辺はどういうふうに考えておられるか。

私は感じとしては、どこ行ってもやはり議会だよりのようなものを基本にしているだけで、それをどういうふうに発信してるかということだけで、議会としてこういう方向だ、こういうふうな考え方だということは、報告会の中では余り出されてないように感じましたが、今度の市民会館にしても、議会としてはこんなふうな考え方であるような、議会の考え方を発信しては余りいなかったように感じるんですがね。

[不規則発言あり]

○中村分科会長 関係ないかもわからんけど。出せないけどが、そういうとこだもんで、やはり議会だよりの内容みたいなことをやはり発信していくしかないのかなど。割合、議員に負担ない内容でやっていくなら、そういう形もあるかなというふうには私を感じましたけど。豊田委員。

○豊田委員 まず、議会だよりの内容を報告するという事は、一回来た人は来なくなるということになると思うんですね。やはりそれは議員が負担だどうのというよりも、そうすることによって我々自身も正直今回テーマを決めることによって、勉強させてもらいました。それは私はインパクトとしてよかったのではないかなというふうには受けとめてます。それを積み重ねていくことで、我々自身も知識なり、いろんなノウハウを得ることができるわけですから、それを否定してしまったらそこでとまってしまうことになりかねないなというようなことで、それは私は当然やるべき一つの業務であるというふうには認識してますけども。だからそういう意味では、負担を減らすということで年1回に絞り込むという考え方です。

○中村分科会長 そうすることで自分のスキルアップにもつながるので、テーマをやはり決めたほうが良いという意見ですね。島田委員、どうでしょうか。

○島田委員 今、高柳委員言ったみたいに、もうここはこれでぶつと終わり。それでその次を変えてくほうが手取り早いと思います、僕もね。それは僕の意見ですけどね。

○中村分科会長 竹内委員。

○竹内委員 今回視察に行って、東村山市が広報・公聴委員会という委員会を立ち上げていて、8人ですよ。それでその中にたまたまそのところは議会だよりの編集を兼ねながらの広報・公聴、議会報告会というふうにはセットになってるんですね。だから、私たちがここだけでなく、本当に今度特別委員会の中でこういうふうには視察してきて、結局これからの議会としての広報・公聴の仕方を、やはりそういう委員会を立ち上げてやっていったらどうかというのをこの提言の中に入れていったらどうかと思うんです。本当にどういうふうにしたらいいか。やはり今うちは議会だよりの編集委員会というのをつくってるんですけど、それを広報・公聴委員会というふうな名前に変えていっていろいろやるのか、どうしたらいいのかというのをもんでいったほうが良いと思うんですね。議会だよりは議会だよりでやってしまう。この議会報告会というかそういうものの広報・公聴委員会を別個に立ち上げるのかというの、全体で考えないと私はいけないことだと思います。

○中村分科会長 議会だよりの広報・公聴もまとめて、特別委員会みたいな形にしたらどうだということですね。

○竹内委員 たまたま行ったところがそうだったので、そういうところもあったよという話で、やはりそこから進めていかないと、みんなにそれを報告まずさせていただいて、これからの進め方どうしたらいいんですかと。

○中村分科会長 島田委員。

○島田委員 これって、事務局、1年という規約があるの。規約というだけ、この広報・公聴。

○事務局 事務局です。特別委員会なり、この分科会ですね、何年で終わるんですとか、何年間で活動しますという規約というのはありません。調査終了までですので、最高、皆さんの任期である4年間続けられますので、そちらは皆様の調査のぐあいによって1年で閉じるもありですし、2年続けるもありという形になります。以上です。

○島田委員 ありがとうございます。それを聞いておくと、やたら勝手に今度その次にしましょうとって規約がそうやってなったらまずいなと。それならもうぱつと切りかえましょう。私はそう思います。

○中村分科会長 という意見ですが。私もこの特別委員会が2つの分科会に分かれてるので、片一方は終わったけど片一方が終わらねはいかんと思うもんで、一応切りをつけるなら、同じように合わせて一応終わっていききたいなというふうには考えてますけど。それは特別委員会の中で、推進委員会の中でどういうふうにするかは決めてもらえればと思いますけど、我々の提言としてはそういうふうな形で行きたいなというふうには私は思いますけどが。

〔不規則発言あり〕

○牧野副分科会長 私も切りをつけるということは大事なことであって、せっかくここ1年やってきたんで、次のステップに行くために、皆さんいろんなこと言われて、これは大事なことだと思うんですね、次のステップ行くのには。いろんな意見が、こういう意見があったよということで次のステップ行くには大事なことだと思うし、私の思うのはやはり常任委員会の報告というか、担当でやるということは僕は大事なことではないかなという気がします。というのはどういうことかという、今市民がこの常任委員会で何を聞きたいか、何が疑問を持ってるかということが、多分、あなたのところはこれだよと言わなくても大概の常任委員会でわかるはずなんですね。それはみんなの代表として私ら出てるんだから、その辺はキャッチして、常任委員会でことしもやられた、例えば市民会館のことだって皆さんうんと苦しめてるでしょう。建設行けば臭気のことすごい苦しめてるでしょう。そういうようなテーマというものの各常任委員会でやるのが僕は大事なことであるし、もっと言うと掘り下げていくのが常任委員会じゃないですか。各人で掘り下げていくというのは非常に難しいことで、何人かで掘り下げていくことによって、やはりきちっとしたものができるといえるような気がいたします。ですから、私は常任委員会での報告というのは大事ではないかなとこんなふうに考えてます。以上です。

○中村分科会長 常任委員会でやっていくということも大事かと思うんですが、話として、話が戻っちゃうんだけど、島田委員のほうに戻っちゃうんだけど、ここで終わりという形にするのはいいんだけど、我々が次に向かって、ここで書いてあるような提言をして終わるのか、提言なしに新しい人に考えてもらうという形で終わるのか。その辺はどうでしょうね。別に何も考えることなく、このまま次の人に任せるよと言っていいのか。その辺はどうでしょうね。

○牧野副分科会長 実は提言云々ということについても、特別委員会の中身というものを考えたときに、議会で結局、今だったら3月議会、6月議会で次のあれを決めないといかんわけ。途中では決めれんわけね。ですから、それに間に合うようなあれで合わせていくということも大事なことだし、先ほど三浦さんが言われたように1年でなくてはいかん、2年でなくてはいかんということじゃなくて、これは僕は皆さんの意見で1年でもうこれは切りをつけようということであれば、僕はそれでいいと思います。けども、その次のステップに行くためのある程度の段取りは、私らはしてやらなくてはいかんじゃないかと。ここでぼんと切るだけでなく、次のこういうふうなことを言ってやらねはいかんじゃないかということは僕は必要だと思います。そうでなければ何の意味もないと思いますね。やっただけの話になってしまう。そんなふうに僕は感じます。

○神谷委員 今、そういう御意見がございました。だから先ほど高柳委員はとりあえずここはここでこう閉めて、で、それを例えば広報・公聴ってすごい大事ということは皆さん共通認識で運用研究部会でも政務活動費使ってまで、タウンミーティングだの何だのというのを研修に行かれてるぐらいですので、その重要性は認識している。ただ、今ちょっと出てる意見というのは、とりあえず今回の議会基本条例特別委員会の中のまず分科会が2つあってその一つの広報・公聴分科会としては1年間やってみた結果、いろんな細かい点はありますけども、その反省として今後の広報・公聴、議会報告だけでないと思うんです、広報・公聴って。だから湖西市議会としての広報・公聴のあり方を議会全体で、例えばもっと議運でもんで広報・公聴のあり方を検討していただきたいとか、そういうことを提言にまとめて出したらどうかというようなことを私は言ってるって解釈をしました。

○中村分科会長 私はそこまでちょっと回らんかったもんで、済みませんね。

○神谷委員 ごめんなさいね。私はそうとったんです。

○中村分科会長 それでは、議会で必要を誰でも認めてる広報・公聴について、もうちょっと全体で考えてもらうべきだということを提言していくということですね。

○神谷委員 一番最初、中村分科会長がおっしゃいましたね、議会報告のあり方が実行委員会を設けるのかどうかという、そこへ立ち戻ったような内容だと思うんです。やはり視察に行っても実行委員会体制、先ほど竹内委員が言われましたように、そういう体制でやっているところもある。湖西市の場合は広報・公聴分科会でとりあえず報告会の段取りを進めてくださいということで、随分会長が悩まれました。それは重々承知しています。そういったことを踏まえて、来年度以降の広報・公聴のあり方を湖西市議会全体でもう一度再検討すべき課題であるというような提言で私はいいかなと思うんです。

○中村分科会長 という意見ですが。馬場委員。

○馬場委員長 ちょっと微妙な立場でちょっと発言をさせていただきたいと思いますけど。運用研究部会のほうではある程度提言されると、まとめができたということと、それから広報・公聴についてはこの視察が終わって、一つの区切りというふうな御意見が出てます。そんな中で特別委員会に課されるという案件というのも、大変広報・公聴部会についてはウエート大きいかなというふうに思いますね。そのことによって、うまく回りさえすれば市民へ徹底できるし、意見も吸い上げられるという、それについてはもう一度まとめたものをいただいて、全員の中で検討していきたいな。また議長ともいろいろ相談しながら、今後のこの組織の改革も、また来年度どっちみちやらなくてはいけませんので、そうしたときに同じ流れで行くのか、メンバーを入れかえてある程度やるのか。そういった方向性も少し検討した中でまた御提言いただいた中で精査して、次の特別委員会にかけていきたいなと思っておりますので、ぜひ、会長よろしく願いいたします。

○中村分科会長 という、今は特別委員長の立場で言ってくれたのか、分科会の委員として言ってくれたか、ちょっと解釈ありますが。牧野委員。

○牧野副分科会長 私はせっかく特別委員会があるんだから、全てのことはまず議運云々より、特別委員会でもむべきだと。特別委員会全員でやってるんだから。何のための特別委員会かということになってしまう。ですから、今のいろんなこと出して、それで特別委員会でやって、それじゃ次はどういうふうに行こうということをやるとするのが特別委員会じゃない。その前の段階で材料をそろえるのが分科会じゃないですか。そういう考えで僕はいいと思いますけどね。

○中村分科会長 ということになると、ここで言ったような内容のある程度はやってみた結果、それとか行ってみた結果をある程度報告しなくてはいかんというふうな形になるわけですね、結局は。

〔不規則発言あり〕

○中村分科会長 ということになると、これでまとまるのか。まだ内容的に何か提言したいようなことがあれば。最終的には神谷委員が言われたように広報・公聴というのは重要だということがわかったもので、特別委員会全体でもう一回考えて、広報・公聴考えてほしいということは提言はしていきたいと思うんだけど、あと内容的に、それに加えて、こういうこともあった、ああいうこともあったというようなことで提言したい部分があれば、そこに一応出してもらいたいというふうに思いますが。

○加藤委員 あれ見ても、1、2、3、4と丸がつけてありますね。あれだって一つのもむのが大変なことになるね。提言書がいっぱい書いてあって、体裁が整っておればいいじゃなくて、やはり回数だとか報告会としてどういう意見をもらうとか、出前講座のああいうようなことをまたこういうようなことが出たというようなことで上のほうでまたこういう宿題が出たということでやってもらえばいいもので、そう何かまとめて提言書だなんて、仰々しくやらなくても、それこそ分科会長大変になっちゃうんで、いいと思うんですけどね。こういう意見が出て、今後こういうふうにしたいということだけで。

○中村分科会長 ということで、じゃあどういうふうにやったらいいのかな。島田委員。

○**島田委員** 余り難しく考えんでも僕はいいと思いますけど。余りしゃくし定規に難しくやっちゃうとどンドンどンどン変な方向へ行っちゃうと思いますよ。もっと簡単にばばっと。まあ自分がええかげんなもんでそうだけど、そのほうがやりやすいと思います、全員でやるときでも。それで加藤委員言われたみたいにああいう感じでこういうの出てるとか、それでいいと思いますけどね。

○**馬場委員長** 神谷委員からお話ありましたように、広報・公聴については大変重要な部分だということで、我々の分科会といたしましても特別委員会扱いしたらどうだというふうな方向性が一つと、やはりその中で議会報告会ではこういったいろんな課題が出てきましたよ、その程度でいいと思うんですね。今回の我々のまとめとしてはね。だから特別委員会のみんなの中で今後のあり方をちょっとやりましょうと。それまでに委員会の中でもある程度もんでおかないといけないと思いますけど。今度の提言する部分についてはその程度で、あとにはほかに広報・公聴のあり方について何か御意見があれば別なんですけど、今回はそういった形でいいかなというふうに考えますけどね。

○**牧野副分科会長** ちょっといいですか。ちょっときょう、議会の中の音響のテストがあるもんですから、10時半からあるもんですから、ちょっと水を差すようで申しわけないけど、ちょっと一回休憩とらせてください。済みません、委員長一生懸命になってるのに。全体の、向こうからのやるみたいなので、ちょっと休憩とりましょう。

○**中村分科会長** 副分科会長のほうから話があったように、テストがあるもんですから、その間、時間的にはどのぐらい、10分ぐらい。10分ぐらい一応休憩といたします。

午前10時28分 休憩

---

午前10時43分 再開

○**中村分科会長** 再開したいと思います。

それで今、いろいろ休憩の間にいろいろ話がありましたけど、広報・公聴については議会全体で考えてもらわなきゃいけないことで行きたいと思うんですが、その中に、ここに書いてある以外にまだ載せてほしいということがあれば、皆さんのほうからいただきたいと思うんですが、何かあれば。豊田委員。

○**豊田委員** 一応出てますけど、インターネット使った情報発信のところで、現状の議会中継、録画放送、これをやはり見直していかないと、せっかくやっても本当に議事録としての価値も1カ月で消えてしまう状態ですし、途中で訂正等が入るとその部分全体が削除されるということになってますので、この間の東村山が180万ですか、それから桐生が年間やると百二、三十万なるようですけども、そういったような予算でもし運用可能なんであれば見直しをして、きちんとした形のものに持っていくべきではないかなと思ってますので、ちょっとその辺を強く取り上げていただけたらと思います。

○**島田委員** やはり今スマホで見る人が多いですよ。それで見たくても見れないと。切れちゃうんだよ、途中で。豊田委員が言われたみたいに、本当に切れる。それでおらうち帰ってみようと思って、やってもつながらないとか。わざわざパソコンで見る人なんか少ないもんで、こういうのでばつと見れないと。ごめん、スマホ持っておらん人いるで、ごめんごめん。それも一つ、豊田委員言われたみたいに強く言ってもらいたい。

それで僕の意見としては、今ここで言うべき問題じゃないかもわからんけど、あんな傍聴席直すだったらこれを直せと言いたいぐらいです。

○**中村分科会長** それに関連してなんだけど、桐生でやってたような議会報告会を中継するというか、録画にして発信するということはどうでしょう。そうすると、まとめとかいろんな部分が議員としてはそのままの状態が見れるという形にもなるんですが、そのほうがまとめる仕事も省けるし、私はある程度そういう方法も一つの方法かなと思うんですが、皆さんどういうふうに考えますか。現状。豊田委員。

○**豊田委員** 議会報告会、確かにそれも一つの課題にはなるとは思いますし、それから現在湖西ではやってない、委員会の中継。これもやはり検討課題になってくるとは思います。そういったものを含めてトータルで議会として取り組む

べきインターネットの取り扱いはどうなんだというのを検討して、それに対してどういう方法があるのか。それに対してどれだけの予算が要るのかというのを検討してみて、次のステップに進んでいく、ある段階を踏むべきだと思っ  
てますけど。

○中村分科会長 そうすると議会報告会も含むという形でいいですかね。そのインターネットの検討については。

〔不規則発言あり〕

○中村分科会長 暫時休憩とします。

午前10時47分 休憩

---

午前10時53分 再開

○中村分科会長 では休憩を解いて会議を続けたいと思います。

そのほかにどうでしょう。提言すべきだという部分がありますか。

いいですか。では、ないようですので、ここに白板に書いてあるような内容を一応広報・公聴分科会の提言だとい  
うことでまとめていきたいと思います。

それでそれ以外にも視察をした中で必要だなと思うことがあれば、提言させてもらいたいと思うんですが、その辺  
はどうでしょうね。いいですか。あくまでもこの議会の視察した報告の中からこういうふうにしたほうがいいという  
話があれば、拾い上げていきたいと思いますが、それでいいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○中村分科会長 それで一応視察の反省のまとめということで終わりたいと思いますが、その他については皆さんの  
ほうから何かありますか。ないですか。

では4番目の今後の日程については、ということなんですが、今休憩中にちょっと話がありましたけどが、特別委  
員会のほうで日程をいつまでにまとめてくれというような日程を出してくれるという話があったものですから、その  
話を聞いて、それに合わせて皆さんにまとめた内容を一回見てもらって、それで提言していきたいというふうに思  
いますが、その日程でよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○中村分科会長 ということで、きょうの予定しておりました内容については一応終わりにしたいと思いますが、い  
いですか。日にちは後で連絡するという形にしたいと思います。ということで終わりにしたいと思います。

○牧野副分科会長 それではどうも長い間御討議ありがとうございました。

以上をもちまして閉会といたします。ありがとうございました。

〔午前10時56分 閉会〕

湖西市議会委員会条例第28条第1項の規定により署名する。

委員長 馬場 衛